

フォーラム2025

11.20 THU.

11.21 FRI.

13:00 ▶ 17:20 講演(開場 12:30)

15:25 ▶ 16:05 ポスターセッション

9:30 ▶ 16:00 講演(開場 9:00)

11:45 ▶ 12:45 ポスターセッション

14:25 ▶ 15:05 ポスターセッション



参加費無料

ハイブリッド
開催

会場

東京大学 伊藤国際学術研究センター(東京都文京区本郷7-3-1)

及びオンライン開催(ハイブリッド開催)



交通安全環境研究所
National Traffic Safety and Environment Laboratory

ご挨拶

自動車や鉄道は、世界各国において経済活動や国民生活を支える重要な役割を担っています。国際的な課題であるカーボンニュートラルや自動運転については、国際的な動向も踏まえた対応が必要であることに加え、日本国内において少子高齢化やインフラの老朽化が進行する中、持続可能な社会の構築に向け、運用や保守などの業務の省力化・効率化にも取り組んでいく必要があります。

また、我が国の企業は、自動車や鉄道に関する製品を輸出や海外生産しているため、国際市場において競争力を発揮できるよう、自動車及び鉄道に関する基準・規格の国際化も重要となっています。

交通安全環境研究所は、これらの対応として、自動車及び鉄道に関する基準・規格の策定のための研究、さらに、自動車の型式指定等に関する審査、リコールに関する技術的検証、鉄道製品に関する国際規格の認証業務などを実施しています。

本年の交通安全環境研究所フォーラムは、当研究所が行っている様々な取組をご紹介します。また、外部の専門家をお招きしてご講演を頂くことにしております。ポスターセッションにおいては、最新の研究成果などについて幅広くご紹介いたします。

ご参加いただく皆様から忌憚のないご意見をいただくことにより、交通安全環境研究所の活動をさらに充実・発展させ、社会的な期待と信頼に応えていく所存でございます。

専門家の方から一般の方まで、幅広い方々のご来場及びご視聴を心よりお待ちしております。

令和7年10月

独立行政法人 自動車技術総合機構

交通安全環境研究所長 松田 敦

ハイブリッド開催のご案内

今年度は、対面開催とオンライン配信を併用したハイブリッド形式にて開催いたします。最新情報は随時、ホームページにてご確認ください。参加費は無料ですが、事前のご登録をお願いいたします。オンライン配信ではZoom及びYouTubeを使用いたします。視聴方法について以下をご確認ください。

参加方法

■会場参加

会場にて参加される方は、申込受付完了メール(印刷、スマホ画面)を受付でご提示ください。

■WEB参加

お申込みいただいたメールアドレス宛てに後日、Zoom及びYouTubeによるライブ配信のURLを送付いたします。当日は指定のURLよりアクセスいただくとご視聴いただけます。

なお、配信は定刻の10分前頃より開始する予定です。事前にアクセスいただき、映像や音声为正しく受信できるかチェックをお願いいたします。※WEBカメラの接続は必要ありません。

13:00 ▶ 13:05	事務局 連絡
13:05 ▶ 13:10	開会の挨拶 交通安全環境研究所長 松田 敦
13:10 ▶ 13:25	環境研究部における研究の概要と方向性 環境研究部長 新国 哲也
13:25 ▶ 14:10	招待講演① 自動車の環境政策の最近の動向について 国土交通省物流・自動車局 車両基準・国際課 国際企画室長 衣本 啓介氏
14:10 ▶ 14:35	講演① 脱炭素に向けた産学官連携による次世代大型車開発促進事業について 一第二報：令和6年度までの進捗状況一 上席研究員 鈴木 央一 国土交通省が、大型車のカーボンニュートラル化やそれに関する基準策定に資する目的で実施している「脱炭素に向けた産学官連携による次世代大型車開発促進事業」は令和6年度に開始され、2年目を迎えた。本報では昨年度から開始された水素エンジンに関する3テーマにおいて成果を上げる体制が整ってきたこと、令和4年度から実施している重量FCVの水素消費量測定に係るテーマにおいて、流量計を用いた計測法が技術基準が求める精度要件を満たす水準にあることが示されたことなどを報告する。
14:35 ▶ 15:00	講演② N ₂ Oの計測精度を確保した排出ガス試験方法の検討 研究員 越川 翔生 高い温暖化係数を持ち、オゾン層の破壊にも寄与する亜酸化窒素（N ₂ O）は排出量の適切な評価が求められる。実環境を考慮したN ₂ O排出性能の評価は多く、特に環境温度によってN ₂ O排出量が変化することが報告されている。一方、環境湿度に着目した研究は少ない。本報では、シャシダイナモメータにて乗用車のN ₂ O排出特性に与える環境湿度の影響について検討した。
15:00 ▶ 15:25	講演③ 事業用自動車のドライバを対象とするAIを用いた マイクロスリープ注意喚起システムの開発のための基礎的調査 主席研究員 田中 信壽 当研究所では、事業用自動車の事故原因としてドライバのマイクロスリープの発生に注目し、これを運行管理の一環としてドライバに注意喚起するシステムの開発を目指している。当該システムは、スマートフォン等の携帯端末にAIを用いたアプリケーションを実装することで実現することを想定している。本講演では、運行管理の現状について総括しつつ、このアプリに求められる機能を検討する上で行った被験者実験などについて報告する。
15:25 ▶ 16:05	ポスターセッション
16:05 ▶ 16:20	自動車認証審査部における審査の概要について 自動車認証審査部長 杉崎 友信
16:20 ▶ 16:50	講演④ サイバーセキュリティ、ソフトウェアアップデート マネジメントシステムの更新審査への取組 情報セキュリティ審査センター長 小林 一樹 情報セキュリティ審査センターが担う、サイバーセキュリティ（UN-R155）、ソフトウェア更新（UN-R156）のマネジメントシステムの認証審査は、法規適用から3年が経過し、更新審査を迎えている。当センターにおける更新審査への取り組み、および各プロセスの運用状況の変化について報告する。さらに、UN-R155,156に関する国際調和活動における現在の議題を紹介する。
16:50 ▶ 17:15	講演⑤ リコール技術検証部における業務の概要について リコール技術検証部長 真下 一則 リコール技術検証部では、リコール制度が適切に運用されるよう、国土交通省と連携して、設計・製造に起因した保安基準不適合等やそのおそれがないか、リコールが既に行われていればそれが適切かについて技術的な検証を行っている。具体的には、不具合情報の分析、事故・火災車両の調査、メーカーヒアリング、実験及び排出ガスサーベイランス等を行っている。これらの現状について紹介する。
17:15 ▶ 17:20	事務局 連絡

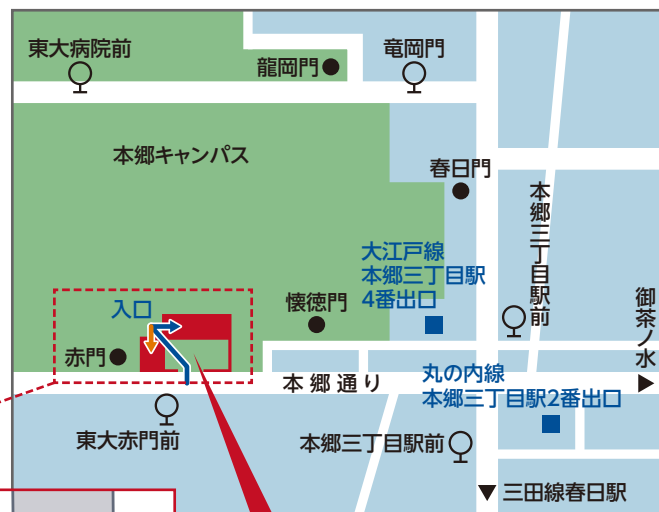
09:30 ▶ 09:35	事務局 連絡	
09:35 ▶ 09:45	交通システム研究部における研究の概要と方向性	交通システム研究部長 長谷川 智紀
09:45 ▶ 10:30	招待講演② モビリティイノベーション ～ 自動化を前提とした未来のモビリティ ～	東京工科大学 教授 片柳研究所 未来モビリティ研究センター長 (東京大学名誉教授) 須田 義大氏
10:30 ▶ 10:55	講演⑥ 地方鉄道における営業車両を用いた動的軌道状態把握の取組	研究員 小野 寛典
鉄道事業者は列車を安全に運行するため、軌道状態を定期的に検査し保守を行っている。しかし地方鉄道では、コストなどの理由により、幹線鉄道で活用されている軌道検測車などの動的な軌道検査が導入できない事業者も少なくない。そこで、当研究所では営業車両を用いて動的な軌道状態を効率的に把握する手法の研究に取り組んでいる。軌道状態を検査するための軌道変位の測定項目に対応するそれぞれの手法について紹介する。		
10:55 ▶ 11:20	講演⑦ 索道搬器における風と動揺のモニタリングに関する取組	主任研究員 森 裕貴
索道事業者は各施設に設置された風向風速計において風を監視しており、安全に運行可能な風速を定めている。しかし、必ずしも事故発生リスクが高い場所で風速の測定が行われていないことから、風を主要因とした事故等が発生している。そこで、ワイヤロープに吊り下がる搬器に着目し、搬器の動揺と搬器に作用する風を搬器上でモニタリングする装置を構築した。本研究では、長期フィールド試験に着手したので、その状況について報告する。		
11:20 ▶ 11:45	講演⑧ 第4種踏切安全通行支援システムに関する取組	上席研究員 山口 大助
警報機と遮断機が設置されていない第4種踏切は直前横断事故の発生が多い。第4種踏切は原則廃止または第1種化（警報機と遮断機を設置）が求められているが、これらに至るまでの当面の安全性の確保が課題である。そこで、踏切通行者に対して列車の接近情報を提供する「第4種踏切安全通行支援システム」の研究開発に現在取り組んでおり、その進捗状況を報告する。		
11:45 ▶ 12:45	昼休み／ポスターセッション	
12:45 ▶ 13:00	鉄道認証室における業務の概要について	鉄道認証室長 和田 好庸
13:00 ▶ 13:25	講演⑨ 改定されたRAMS関係規格の注意点について	主席研究員 森 崇
RAMS関係規格がEN規格に合わせて変更された。思想に大きな変化はないが、ユーザーがプログラム可能なICに対する規格対応の明確化、すでに開発済みのサブシステムの利用、RAMS規格による安全技術のガイダンスの充実など、内容の充実が図られた。変更点とその狙いについて解説する。		
13:25 ▶ 13:40	自動車安全研究部における研究の概要と方向性	自動運転研究統括監 自動車安全研究部長 河合 英直
13:40 ▶ 14:25	招待講演③ 衝突シミュレーションによる人体傷害予測の 現状と将来の方向性	関西大学 社会安全学部 教授 伊藤 大輔氏
14:25 ▶ 15:05	ポスターセッション	
15:05 ▶ 15:30	講演⑩ 電気自動車の安全性に関する国際基準調和に向けた取組	主席研究員 小鹿 健一郎
当研究所では、電気自動車のバッテリーを対象とした安全性評価に関する取り組みとして、自動車基準調和世界フォーラム(WP29)への研究者の派遣、所内での研究活動を行っている。研究者の国際会議への派遣では、電気自動車の安全性作業部会 (EVS-IWG) での議論状況について報告する。また所内の研究活動では、バッテリーの熱安定性低下の原因の一つとされるリチウム析出の非破壊診断による検出に関する検討状況について報告する。		
15:30 ▶ 15:55	講演⑪ 運転席と助手席に乗車した状態での側面衝突における 乗員挙動に関する調査	主席研究員 田中 良知
運転席と助手席に乗車した場合の側面衝突事故におけるそれぞれの乗員の挙動について、軽乗用車と小型乗用車を対象として調査した。その結果、軽乗用車では乗員の頭部同士が衝突して頭部傷害値が基準値を超えており、死亡重傷事故に至る可能性のあることが確認できた。今後、更なる側面衝突事故時の乗員の安全性向上のために、乗員同士の衝突防止対策について検討する必要がある。		
15:55 ▶ 16:00	閉会挨拶	交通安全環境研究所 理事 坂本 一郎

ポスターNo.	講演題目	所属	発表者(※は筆頭発表者)
①	自動運転機能使用時における走行環境性能の評価手法に関する検討	環境研究部	奥井 伸宜[※]
②	ディーゼル貨物車のNOx浄化装置である尿素SCRシステムの使用過程における性能低下要因の検討	環境研究部	山本 敏朗[※]
③	商用車のバッテリー劣化に関するフィールド調査に向けた取組(2)	環境研究部	小鹿 健一郎[※]
④	国連におけるAIの議論の動向と交通研の取組	環境研究部	尾崎 信利[※]、新国 哲也
⑤	車検データを活用した使用過程車の分析	環境研究部	榎本 恵[※]、鈴木 央一、新国 哲也
⑥	カーボンニュートラル燃料の内燃機関搭載車への利用	環境研究部	川原田 光典[※]
⑦	鉄軌道台車試験施設の更新について	交通システム研究部	佐藤 安弘[※]、大野 寛之、小野 寛典
⑧	GOA2.5自動運転の安全性評価のための係員動作の比較検討	交通システム研究部	工藤 希[※]、望月 駿登、三好 正太
⑨	踏切障害事故の実態分析 -踏切道がある自動運転に向けた基礎的検討-	交通システム研究部	工藤 希[※]、押立 貴志(客員研究員)
⑩	路面電車におけるLiDARセンサを用いた前方車両の検知手法の検討	交通システム研究部	望月 駿登[※]、工藤 希、山口 大助
⑪	全国の地域公共交通計画の類型化と課題抽出に関する研究	交通システム研究部	小林 貴[※]
⑫	後部座席乗員の被害軽減に関する検討	自動車安全研究部	細川 成之[※]、田中 良知、松井 靖浩、薄井 雅俊
⑬	マルチボディモデルの関節構造が歩行者ダミーの衝突挙動に及ぼす影響	自動車安全研究部	薄井 雅俊[※]、松井 靖浩、細川 成之、田中 良知
⑭	人を対象とした車両前方ソナーの検知特性	自動車安全研究部	松井 靖浩[※]、細川 成之、及川 昌子(東京都立大学)
⑮	フィルム貼付が前面ガラスの光透過性に及ぼす影響	自動車安全研究部	加藤 洋子[※]、松井 靖浩、関根 道昭、青木 義郎、伊藤 紳一郎
⑯	ダイヤモンド型パターン照射前照灯が歩行者や車両の気づきやすさに及ぼす影響	自動車安全研究部	青木 義郎[※]、加藤 洋子、関根 道昭
⑰	自動運転マーカーランプの昼夜の見え方に関する実車評価実験(1) -ライン型ランプをルーフ前端に取付けた場合-	自動車安全研究部	阿部 晃大[※]、関根 道昭、加藤 洋子、青木義郎、飯塚 達也
⑱	自動運転マーカーランプの昼夜の見え方に関する実車評価実験(2) -マーカーランプを前照灯の近傍に取付けた場合-	自動車安全研究部	関根 道昭[※]、阿部 晃大、加藤 洋子、青木 義郎、飯塚 達也
⑲	一般ドライバの注意深い運転行動に関する調査	自動車安全研究部	真鍋 裕輝[※]、児島 亨、北田 幸一、森崎 憲治
⑳	市街地を走行する人間ドライバが周辺車両の危険な行動に遭遇した場合の回避行動及び物理的な余裕を確保するための運転行動	自動車安全研究部	児島 亨[※]、真鍋 裕輝、北田 幸一、森崎 憲治
11/20 講演①	脱炭素に向けた産学官連携による次世代大型車開発促進事業について-第二報:令和6年度までの進捗状況-	環境研究部	鈴木 央一[※]、川原田 光典、奥井 伸宜、新国 哲也
11/20 講演②	N ₂ Oの計測精度を確保した排出ガス試験方法の検討	環境研究部	越川 翔生[※]、鈴木 央一
11/20 講演③	事業用自動車のドライバを対象とするAIを用いたマイクロスリープ注意喚起システムの開発のための基礎的調査	環境研究部	田中 信壽[※]、新国 哲也
11/20 講演④	サイバーセキュリティ、ソフトウェアアップデートマネジメントシステムの更新審査への取組	情報セキュリティ審査センター	小林 一樹[※]、榎本 恵
11/20 講演⑤	リコール技術検証部における業務の概要について	リコール技術検証部	真下 一則[※]
11/21 講演⑥	地方鉄道における営業車両を用いた動的軌道状態把握の取組	交通システム研究部	小野 寛典[※]、佐藤 安弘、篠田 憲幸(客員研究員)、緒方 正剛(客員研究員)
11/21 講演⑦	索道搬器における風と動揺のモニタリングに関する取組	交通システム研究部	森 裕貴[※]、小野 寛典、山口 大助、八木 誠(客員研究員)
11/21 講演⑧	第4種踏切安全通行支援システムに関する取組	交通システム研究部	山口 大助[※]、三好 正太、長谷川 智紀、八木 誠(客員研究員)
11/21 講演⑨	改定されたRAMS関係規格の注意点について	鉄道認証室	森 崇[※]
11/21 講演⑩	電気自動車の安全性に関する国際基準調和に向けた取組	自動車安全研究部	小鹿 健一郎[※]
11/21 講演⑪	運転席と助手席に乗車した状態での側面衝突における乗員挙動に関する調査	自動車安全研究部	田中 良知[※]、細川 成之、松井 靖浩、薄井 雅俊

会場へのアクセス

交通 地下鉄利用

- ・東京メトロ丸ノ内線「本郷三丁目」駅
2番出口 徒歩8分
- ・都営地下鉄大江戸線「本郷三丁目」駅
4番出口 徒歩6分
- ・東京メトロ千代田線「湯島」駅又は
「根津」駅 徒歩15分



伊藤謝恩ホール

東京大学伊藤国際学術
研究センター内(地下2階)

東京都文京区本郷7-3-1

リクルートブースのご案内

開催期間中は、ポスターセッション会場にリクルートブースを設けております。
当研究所の採用について興味のある方は、お立ち寄りください。研究員がご説明させていただきます。

お申込方法

お申込締切:11月18日(火)17時まで

- 交通安全環境研究所のホームページから事前登録をお願いいたします。
 - 事前登録時に、参加方法を「会場／オンライン配信」から選択可能です。
 - 会場にて参加される方は、先着順のため、定員に達した場合は、オンライン配信での参加となります。
- お申込方法・その他詳細はホームページをご覧ください。<https://www.ntsel.go.jp>



- お願い
- ビデオ・写真・レコーダ等による撮影及び録音はご遠慮ください。
 - 講演中の携帯・パソコンの使用はご遠慮ください。
 - 全館禁煙となっております。
 - ゴミはお持ち帰りください。
 - アンケートへのご協力をお願いします。



交通安全環境研究所
National Traffic Safety and Environment Laboratory

お問い合わせ先

交通安全環境研究所 フォーラム2025事務局
TEL: 03-5275-3139 E-mail: ntsel-f2025@ntsel-forum2025.jp

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。